

道路航空写真（空中写真）

—昭和 50 年前後の県内主要路線の上空撮影写真—

「道路航空写真（空中写真）」は、平成 20 年度行政文書定期移管（平成 20 年 7 月 26 日）の際に総務部総務課を通じて引き渡しを受けた 36 冊の写真帳です。大きさは縦 29.0cm，奥行き 29.8cm，厚さ約 7.0cm で，1 冊におよそ 90 枚のモノクロ航空写真と撮影路線を示す地図が綴られており，全体で 3,271 枚の写真と地図 47 葉からなります。

表紙は紺色で，元の表題（タイトル）を示す「空中写真」と，撮影された路線名，撮影年月，撮影縮尺，発注者茨城県の名称が，金文字で印刷されています。函の背表紙には，長期文書を示す朱色のラベルが貼付されており，それには保存期間（未記入），課名（土木部道路維持課），整理番号（59-1～59-36），簿冊名（空中写真，撮影路線名），文書発生年度（昭和 45 年度～54 年度），廃棄予定年月日（平成 20 年 4 月又は未記入）が記されています。

「空中写真」とは，飛行体から撮影した写真を指しますが，当館ではより一般的呼称の「道路航空写真」として登録しました。また，整理番号の 59-**は，茨城県文書等整理保存規程（昭和 59 年茨城県訓令第 19 号）の成立と関係があるかと思いますが，詳しくは不明です。

写真縮尺は 1:6,000 で，上空約 900m から路線に沿って前後が重なり合うように撮影されています。これらにより，およそ 30 年前の茨城県内の路線や沿線の集落，土地利用状況を知ることができます。この間に本県の開発は著しく進んでおり，その前後を比較するためにも貴重な資料であるといえます。写真帳は現在，当館閲覧室にて公開されていますので，是非ご覧ください。撮影データについては目録（[「道路航空写真」.xls](#) 41KB）をご参照いただければ幸いです。



36 冊の道路航空写真



表紙



さて、茨城県内には国道6号、国道50号、国道51号等の幹線国道がありますが、写真帳では国道118号(59-1, 59-2)、国道293号(59-3, 59-4)、国道355号(59-5)の3路線が残されています。右下は、そのうち国道118号の起点にあたる水戸市三の丸1丁目交差点を上空から撮影したものです。写真中央部に弘道館、茨城県庁(現在の三の丸庁舎)、左上部に水戸駅が写っています。

その構内には^{ターンテーブル}転車台も確認できます。蒸気機関車はすでに退役していましたが、その向きを変えるための設備で、かつて機関庫があった名残です。線路が放射状に並んでいることが確認できるとおもいます。左下部の黒っぽい筋状に見えるものは樹木で、かつての水戸城の濠割に沿う形で生い茂っています。かつての水戸城跡には、現在茨城県立水戸第一高等学校、水戸第三高等学校、水戸市立第二中学校、茨城大学教育学部附属小学校があります。下部を貫く川は那珂川で、中央が1931年(昭和6)架橋の水府橋、左側が水郡線鉄橋です。写真からわかるように、那珂川はここで湾曲しており、周辺の根本町、青柳町、枝川町はたびたび水害によって苦しめられました。



59-1 「国道118号線」C1-1

(撮影日：昭和51年9月18日)



上で述べた国道3路線以外は、すべて県道の航空写真です。県道は道路法により主要地方道と一般県道に分類されますが、写真帳では前者が24路線、後者が98路線収録されています。主要地方道とは広域交通を担う幹線道路として位置付けられたもので、一般県道よりも重要性の高い道路であると理解していただければよいと思います。

では、一般県道小泉・水戸線に沿って那珂川を下ってみましょう。酒沼川と合流し、太平洋へ注ぎ出す那珂川河口地点を撮影したものが右の写真です。写真上部が大洗側、中央部より下が那珂湊の市街になります。対岸の街は1956年(昭和31)架橋の海門橋によって結ばれていま



59-24 「一般県道小泉・水戸線」C1-2

した。写真左上に見える橋ですが、当時はまだ有料で、無料化されたのは1980年（昭和55）2月のことです。中央部の樹木に囲まれた場所は、^{いひんかく} 夤賓閣の跡地につくられた湊公園です。^{いひんかく} 夤賓閣は、1697年（元禄10）に徳川光圀によって建設された建物で、水戸藩主らによってしばしば酒宴や詩歌の会が催された場所です。1864年（元治1）の元治甲子の乱で焼失した後、1897年（明治30）に湊公園として整備されました。右下に見えるのは1913年（大正2）に勝田との間に開業した湊鉄道の那珂湊駅です。現在のひたちなか海浜鉄道湊線になります。

この写真から、1977年度に水揚高約6万トン、その額60億円に達し、漁業基地として繁栄していた那珂湊の街が、建物等によりすきまなく埋め尽くされている様子がわかります。（撮影日：昭和49年7月31日）



最後に、一般県道水戸・茨城線の路線写真から、偕楽園を眺めてみます。この路線は、かつて国道6号として千波方面から大工町を通り、水戸駅前を抜け、北をめざす幹線道路でした。東側にバイパスとして6号が開通し、これまでの路線が格下げとなったものです。右下に見える湖は千波湖で、湖畔にはレジャー施設として建設されたレークランドが見えます。ここには飛行機も展示されていて、ここではじめて機体を見たという人も多いのではないのでしょうか。中央部の黒っぽい部分が偕楽園公園で、中央部南寄りの建物は好文亭です。左上には歴史館が写っています。当館は県立水戸農業高等学校の跡地に建設され、昭和49年9月3日に開館しました。写真は同年の7月31日に撮影されたものですから、開館準備が急ピッチで進められた頃のもので、今年で開館38年目を迎え、現在は緑豊かな敷地を誇りますが、当時は樹木が疎らで、1本1本が小さかったことも確認できます。



59-24 「一般県道水戸・茨城線」C3-1



今日ではインターネット等を利用することで、上空から撮影した写真も容易に見ることができるようになりましたが、ここで紹介した写真を手にしていただき、ちょっと昔のことを調べることも大変興味深いことなのではないのでしょうか。写真は比較的鮮明で、実に多くの情報を得ることができます。

他にも本県の状況を知るための写真資料として、昭和44年撮影の「茨城県全域航空写真」（撮影縮尺1:15,000、合計2,268枚）も公開しております。あわせてご覧いただければ、幸いです。

（史料学芸部行政資料課 首席研究員 富田 任）